

みつくら

令和 3年 3月15日 第334号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

たろし滝特集

コロナ禍で規模縮小の測定会

大瀬川たろし滝測定保存会（板垣寛会長、会員149名）主催のたろし滝測定会は、2月11日に行われた。昨年の測定会では、新型コロナウイルス感染症が発生してはいたが、県内では感染者もおらず通年どおり賑やかに行われた。しかし今年も感染累計者数が520名（2月11日現在）とあって、来賓は招かず、御神楽奉納やたろし滝讃歌、太さ当てクイズ、ひつつみのおもてなしなども取りやめとなった。

当日は午前8時30分から、安協大瀬川分会の役員5名が交通誘導に取りかかり、午前9時には大瀬川たろし滝測定保存会の役員が、たろし滝や階段入り口で測定会の準備にかかった。音響の準備は、板垣公さんが担当して午前10時からの開会に備えた。測定会の司会は昨年までは板垣幸夫さんであったが、今回は板垣雄一さんが進行的。熊谷幸夫副会長の開会で参加者全員が豊作祈願を行った。

板垣寛会長から「今回の測定会は、47回目になります。その中で何が分かったかと申しますと、やはり、太くなればなるほど豊作でした。また、『測定出来ず』は昭和年代（14年間）では21%、平成から（32年間）では丁度50%と地球規模での温暖化を示していることです。今後はどのようなことをたろし滝が教えて下さるのかと思っております」と述べた。続いて太さの測定と川柳発表（何れも別記）が行われ、菅原黎治副会長の閉会で終了した。

広報はなまきの表紙にたろし滝

広報はなまき3月1日号の表紙に、たろし滝の測定写真が大きく掲げられた。この写真は、上部をカットし測定部を撮ったので迫力のある太さがわかる。写真には巾広い巻き尺を持った5人のスタッフが写っているが、裏側にも2人いたので計7人が測定に携わり、会員でもある佐々木順一県議が測定値を発表している瞬間をとらえたものであった。

今年は過去8番目の太さ

今年のたろし滝の太さは、6m10cmで、過去47回の測定で8番目の太さとなった。今までで一番太かったのは、昭和53年の8.0m、続いて昭和60年の7.8m、昭和59年の7.0m、平成24年の6.68m、昭和52年の6.5m、昭和61年の6.4m、平成10年の6.3mであった。平成以降の32年間では今回が3番目の太さでもあった。

会長川柳で豊作を占う

恒例となっているたろし滝測定後の板垣寛保存会会長川柳は、「わあすごい ドラマ明るくなる兆し」と詠んだ。達増拓也県知事の川柳も寄せられ、「豊作と 疫病退散 みる氷柱」と披露された。また、佐々木順一県議からは、「豊作に 期待膨らむ 太柱」と自ら詠まれた。会長川柳は、第17回の平成3年から詠まれていて、以降の最も太かった平成24年（6.68m）では「この太さ 熱い絆に 育まれ」と詠まれて、22年間で5番目の収穫量（豊作）であった。

各テレビ局も測定会を放映

今年の測定会の様子は、2月11日から12日にかけて県内の各テレビ局が一斉に放映した。中でもテレビ朝日の映像は板垣和郎さんが撮影したもので、「グッドモーニング」の中で全国放送された。板垣さんは毎年、勤務先の花巻温泉で放映するためにたろし滝を撮影していて、今年も測定前から何回も足を運んでいた。放映された映像では、測定会の様子は勿論のこと、それまでの様々な映像も取り入れてあり過去最大の太さであった昭和53年の8mの写真も紹介していた。

他のテレビ局ではNHKは「東北ニュース」、岩手放送は「ニュースエコー」、岩手めんこいは「mitライブ」、テレビ岩手は「ニュースプラス1」の中で放映された。ちなみに、最初にたろし滝がテレビ放映されたのは、昭和52年2月25日で、NHKが全国放送したのであった。

太くなった要因の最低気温

今年のたろし滝が太くなった要因のひとつと思われる最低気温を気象庁花巻空港測候所の記録で調べてみた。12月15日迄は例年並の0℃から-5℃であったが、16日から21日迄の1週間は-10℃から-14℃と冷え込みが増し、その後一旦降り始めたたろしが落ちた事で、たろし滝の土台が作り上げられ1本につながったと菅原黎治さんは話している。

以降、年末の28日迄は再び平年の最低気温であったが、31日から1月9日迄の10日間はどれも-10℃以下で最も冷えた1月9日には、-18℃を記録している。その後の1月29日迄の20日間は、若干平年より低かったものの、その差は1~2℃位であった。その後の1月30日から2月4日までの約1週間は再び冷えて-10℃から-14℃となって更にた

ろし滝が太くなったと思われる。花巻空港測候所でこの気温なので、たろし滝付近の最低気温は更に低かったであろう。

近年にない程多くの来観客

今年の測定会はコロナ禍で催しが削減されたにもかかわらず訪れた車の駐車場の列も長くなった。「コロナ禍でひつつみのもてなしができないので、代わりにインスタントのひつつみ130袋を準備しましたが、測定会の途中で足りなくなった」と板垣雄一さんは話していた。

また、菅原黎治さんは、測定会後も毎日たろし滝に通って監視をしており、「3日後に訪れた際（午後1時半頃）も30人ほどすれ違った。いつもの年より多いなどは感じていたがお賽銭も例年より多く、来観客は平年の2.5倍はあったのではないかと話していた。自粛で閉じこもっていた分、密にもならず、換気の心配もいらない「見事なたろし滝」に多くの足が向かったのかも知れない。

各新聞も報道

毎年、県内の各新聞もたろし滝測定会を載せているが、今年も岩手日報、岩手日日、読売新聞、河北新報の4社が掲載している。岩手日報と岩手日日は、たろし滝を下の方から上の方に向けた写真で何れも迫力があつた。

たろし滝の測定は、昭和50年から実施しているが、最初の新聞報道は3回目の昭和52年に掲載された岩手日報の「ばん茶、せん茶」で、新聞記事として掲載されたのは、昭和53年2月15日号の太さ8mの記録を紹介したものであった。

公衆電話が設置される

大瀬川振興センター駐車場北側、県のチェーン着脱場にある自動販売機脇に公衆電話（BOX形式）が設置され3月1日から利用可能となっている。携帯電話の普及によって公衆電話はめっきり見なくなり、今まで県道13号線沿いでは大瀬川地区から笹間地区まで設置されていなかった。しかし、公衆電話回線は個人や携帯電話回線とは別回線のため、災害時には優先的に繋がるようになっている（災害伝言ダイヤル171等）。そのため、今後は地域防災模擬訓練等の訓練項目とすることを検討してはいかがだろうか。

かつて大瀬川に公衆電話が設置されたのは、南田の十字路、町道大瀬川線1ヶ所で、昭和62年に設置され平成15年に撤去されている。

表彰

花巻市消防団	
市長表彰・功績章	菅原 亮（13分団2部）
	功績章 藤原 誠・畠山 拓（13分団1部）
団長表彰・功労章	畠山勝敏（13分団本部副分団長）
	精錬章 藤原 誠・畠山 拓（13分団1部）

みつくら

令和 3年 3月15日 第334号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

大震災10周年企画展を開催中

大瀬川活性化会議主催の「東日本大震災10周年、あれから何を学び、何をどう伝えるか」企画展を開催している。期間は3月31日まで。展示の準備には振興センターの職員他、大瀬川歴史クラブの菅原富男さん達が手伝った。展示の内容は3つに分かれていて「あの時大瀬川では・・・」と「あれから何を学んだか」、そして「あの震災をこれからどう伝えるか」を展示している。また同時に、震災を報じた新聞や書籍も含めた企画展なので多くの方が訪れるのを期待している。

長靴ホッケー大会は4位

去る2月7日石鳥谷アイスアリーナで第23回町民長靴アイスホッケー大会(4チーム参加)が開催され、我が大瀬川体協チームも参加した。結果は2敗1分けで残念ながら4位となった。
 選手は板垣春介さん、板垣圭介さん兄弟(谷内家)、菅原崇将さん(太郎ノ竈家)、藤原慎也さん(天神田家)、藤原 誠さん(仲朴田家)、板垣伸吾さん(長助家)、菅原凌太さん(札立場竈家)、菅原 渉さん(田中竈家)の8人。
 監督を務めた藤原 誠さんは参加チームが強豪だったが参加することに意義があり、若手の方々に協力頂き善戦したので、来年は上位を目指したいと述べていた。

花巻測候所で震度5弱

2月13日の夜11時8分の福島沖地震は熟睡中であつたが、突然大きな音で鳴り出した携帯電話の緊急地震速報アラームの「ぎゅぎゅぎゅぎゅ」でびっくりして飛び起きた。テレビでは毎日「大震災から10年」などと特別番組が多い中だったので「まさかの再来か」と誰もが不安を感じたのではないだろうか。花巻空港測候所の震度は5弱と発表。震度5強は「物に掴まらないと歩けず、ブロック塀が崩れ

る強さ」で5弱は「大半の人が恐怖を覚え、棚から食器などが落ち始める強さ」とのことであつた。
 ちなみに、福島・宮城県の一部では震度6強となり、福島・宮城で沿線の架線を支える柱が折れたり高架橋が損傷した影響で東北新幹線の「那須～一ノ関」間が1週間不通となった。

爆弾低気圧で元気体操を中止

2月16日は、急速に発達した(24時間で998hpa→948hpa)爆弾低気圧によって、大瀬川でも猛吹雪に見舞われ「ホワイトアウト」の危険な状態が午前中一杯続いて誰もが車の運転を控えた程であつた。この日の花巻の瞬間最大風速は20mを記録している。爆弾低気圧とは、正式な気象用語ではないものの、冬、春から初夏にかけて急速に発達する低気圧で、台風などとは発生原因が違う事から区別されているようだ。
 この日は午前9時30分からあじさいの会の「元気でまっせ体操」であつたが中止となった。お昼頃には幾分風も弱まり、午後からのくずまる大学「福々亭ナミ子さんの健康漫談」(詳細はみつくら3月1日号参照)は予定通り行われた。
 近年大瀬川では令和元年12月26日にも爆弾低気圧を経験している。

たかいさわ女子会が籠作り

今年2月に設立した、たかいさわ女子会では、初めての活動として2月15日と17日の2回、大瀬川振興センターで籠作りを行った。この籠作りは、エコクラフトを材料に、板垣福子さんから作り方を教えられた。2回の制作でほぼできあがり後は仕上げを残すのみ。
 この「たかいさわ女子会」とは、7区の手芸を楽しむ同好会で、きっかけは板垣福子さんから籠つくりを教えられるため急遽組織したもの。会員は、代表の菅原みさ子さんの他に、菅原照子さん、菅原ミエ子さん、菅原茂子さん、畠山久子さんの5名。菅原みさ子さんは「自粛、自粛で会合も少ないこの頃なので、仲間が集まれて久しぶりに楽しい会でした。籠の出来映えにも満足です」と話しておられた。

石小の新入生は5名

4月に小学1年生に入学予定の子供達を紹介する。

【児童氏名・保護者名・屋号の順】

- 7区 畠山拓磨(たくま)くん・義明・下西海地家
 - 8区 熊谷光(こう)くん・大嗣・木ノ宮家
 - 9区 熊谷ひなたちゃん・純・牛房家
 菅原新(あらた)くん・雅幸・赤坂竈家
 熊谷陽麻梨(ひまり)ちゃん・政則・萬ノ助竈家
- 新1年生のみなさん、おめでとうございます。
 なお、大瀬川地区子供育成会では、卒業おめでとう大会と自転車教室が今年もコロナ禍により中止となったため、卒業生と新入生の家族写真と一言を添えて会員に配布している。

御所森に古塔婆入れ設置

3月上旬に御所森の合籠屋(がんごや)前に、石の古塔婆入れが石のセガワ(本社花巻市)より寄贈された。
 塔婆は亡くなった人への追善供養としてお墓に置かれているが、供養後の処理が様々で、後始末に悩みそのまま古く黒くなっているものもあつた。
 今回、石のセガワより無料で処理して頂けると案内があり設置の運びとなった。
 公葬地管理運営委員会では、今後は景観上も含め古くなった塔婆は古塔婆入れに入れて頂くようお願いしている。

町民卓球大会で大瀬川が優勝

去る2月14日に行われた第48回石鳥谷町民卓球大会は、石鳥谷体育館で5チームによって争われ、大瀬川チームが見事に優勝した。
 選手は菅野裕二さん、喜与子さん、葵さん(姉屋敷家)、菅原亮さん(助作竈家)、板垣貴博さん(甘木竈家)、熊谷俊哉さん(善助竈家)の6人であつた。
 おめでとうございます。

令和2年度のふれあい事業でマスクを配布

大瀬川活性化会議の地域福祉委員会(菅原敬子委員長)では、昨年11月22日に配食サービスを予定し準備を進めていたが、実施2日前になってコロナ禍による施設の使用制限などから中止が発表され非常に残念な思いをした。
 同委員会では、これに代わるふれあい事業としてマスクを配布することとし、対象者は配食サービスと同じ、85歳以上の方と65歳以上の一人暮らしの方で、2月末、66名に配付した。
 マスクが入った袋には「どうぞ まみしく おでれや」の言葉と、今回の配布経緯が書かれたメッセージが添えられてあつた。
 岩手県内では感染の状況が落ち着いてきているが、ワクチン接種も始まり、なんとかコロナ禍が収束して、次年度は配食サービスをはじめ、事業が予定通り実施できることを祈っている。

事務室

先日まとまった雪が降った朝、小学生の男の子3人がスクールバス停に向かって、まだ除雪前の歩道を歩いていて。
 高学年らしいそのうちの一人は、どこかぎこちない歩き方をして、2、3歩前に行く。よく見ると、雪で足元が悪いため、長靴の側面を使いながら、低学年の2人が歩きやすいように一生懸命に通路を確保していたのだった。心温まる光景を目にして嬉しくなつた。
 それにしても「いつ無くなるべ」と思った雪だが、消えるのは早かった。田んぼにいた白鳥の姿も見えなくなった。なんだかソワソワしてきた。